

ドル/円相場のトレード戦略

【ドル/円 週足】



■中期展望

本年年初に展望では、2018年の世界経済環境に関しては2017年の延長線上にあり、大きく変化する要因は見当たらず、通貨の強さも2017年の構図をおおむね引き継ぎ、ドル/円に関してはレンジ内で安定的に推移する可能性が高いと考えてきました。

堅調な米景気、FRBの利上げ観測の継続はドルを下支えし、緩やかなドルの上昇が期待できるため、大幅なドル下落のリスクは低いように考えられるものの、2017年12月のFOMCで発表されたドットチャートによると2018年は3回の利上げが予想であり、その点から考えると米国の長期金利の上昇幅は限られたものとなる可能性が高く、ドルの上値も限りがありそうで、昨年の高値水準が上値目標としてきました。

しかし、1月の相場は、年初に113円台の高値を付けて以降、ドルはじり安となり1月後半には108円前半まで値を下げました。

さらに2月に入ると、トランプ米大統領が洗濯機と太陽光パネルに対してセーフガード（緊急輸入制限）を発動することに署名し、貿易摩擦に対する懸念が拡大したことやムニューシン米財務長官が「弱いドルは貿易面で米国の利益になる」と発言したことなどをきっかけにドル安の流れが強まり、さらに米金利の急上昇と米株の急落を背景としたリスク回避姿勢の強まりから円買いが強まり、下値めどとしてきた昨年安値107円水準を下回り104円台にまで突入しました。

しかし、その後は良好な米国経済を背景にドルの買い戻しが進み110円台を回復する動きとなって

ドル/円相場のトレード戦略

います。

本年はレンジ相場が継続するという見方に変化はなく、想定レンジを100円～115円程度と考えていますが、年初の高値から3月安値の50%戻し水準が111円60銭水準、61.8%戻しが113円20銭水準であり、短期的にはこれらの水準が上値めどとして意識されそうです。

■短期展望

先週は、109円半ばでスタートした後、じり高に推移し、一時110円27銭まで上昇しました。しかし、イタリアの政治不安や米国を中心とした貿易摩擦の激化、またトルコリラをはじめとした新興国通貨の下落により、リスクオフが意識され109円台前半へ押し戻されました。

今週も、先週同様リスクオフの流れは続き、また米欧の金融政策決定や米朝首脳会談など重要イベントが続くことから、模様眺めムードの強い相場が続きそうです。

したがって、基本的には108円50銭から110円50銭レンジでの小動きが予想されるものの、イベントの結果によっては大きく振らされるリスクも警戒しておくべきでしょう。